

本年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 安全で安心な学校づくり          (1) 防災の日、避難訓練の充実          (2) 給食、健康管理</p> <p>2 教育のさらなる充実          (1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上          (2) 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの視点での授業改善          (3) 地域の教育資源を活用した取組          (4) 働き方改革に対応した協力体制</p> <p>3 学校からの発信力の強化          (1) センターの機能の充実          (2) 情報発信の充実</p>		
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>幼稚部</p>	<p>時代の変化に応じた聾教育の専門性の維持向上、連携・協力体制の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校状況や家庭環境、子どもの実態の多様化に応じた効果的な指導や保護者支援の在り方を検討する。</li> <li>・公開授業や外部専門家活用事業、部研究の機会に教員が主体的に学び、指導技術を維持向上する方法を探る。また、学年を複数の職員で担当し、協働的な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態や家庭環境を丁寧に把握する。保護者が必要とする指導や支援を選択できるようにする。</li> <li>・教員が主体的に学ぶことができる内容を行う。情報共有の方法や業務分担などを工夫して、複数担当制が効果的に行えるようにする。</li> </ul>
<p>小学部</p>	<p>個のニーズや社会の変化に応じた教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携を大切に、児童の実態とニーズを十分に把握する。</li> <li>・学習指導要領に準じた授業改善を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し、各種研修やスキルアップウィークを通して、教員の授業力の向上を図る。</li> <li>・外部専門家活用事業や地域の教育資源の活用を通して、より良い教育活動を展開するための助言や支援を受けられる機会をもつ。</li> <li>・教科担任制を継続し、教科の専門性を生かした授業の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳や懇談等様々な機会を活用して、保護者との情報共有に努める。</li> <li>・研修内容やグループ編成等を工夫し、教員が主体的に話し合える環境を整える。</li> <li>・教員間の連携、教員と他専門職との連携の機会を積極的に設ける。</li> <li>・教科横断的な指導の視点を意識する。</li> </ul>

<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児児童の「発想力」や「企画力」を引き出しながら、主体的に活動する力や挑戦する力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者の価値観を押し付けず、幼児児童の自由な発想を引き出す工夫をし、自ら取り組めるようにする。</li> <li>・ 指導者が「待つ」ことで幼児児童が自分で考え、最後までやり切れるようにする。</li> <li>・ (幼)合同朝会や合同保育の中で、幼児が活動を進める場面を設ける。</li> <li>・ (小)スポーツデーや児童総会を通して、児童の企画力を後押しする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児児童が主役となって主体的に挑戦できるよう、指導者が日々意識する。</li> <li>・ 幼児児童が最後までやり切れるよう、手助けし過ぎずに最後まで「待つ」ようにする。</li> <li>・ (幼)幼児が見通しをもち、自信をもって活動できるように、サポートする。</li> <li>・ (小)児童の発想力や企画力を信じ、ファシリテートしながら伴走するようにする。</li> </ul>
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的、対話的で深い学びや個別最適な学び、探究的な学習を深めるための ICT の積極的な活用に向けての教育環境のさらなる充実を行う。</li> <li>・ ルールに基づいた教職員の生成 AI の活用・業務の削減を引き続き推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業支援システムの円滑な活用を通じて子どもに応じた学習に取り組む環境や ICT を活用しながら話し合い活動ができる環境づくりをする。トラブルが発生した際、円滑にネットワーク担当者、情報推進者に報告、対応ができる体制づくりをする。</li> <li>・ 生成 AI を業務に活用することで、ライフワークバランスの助長ができるよう積極的な利用に向けての体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットワーク環境が ICT を活用した学習に適しているか確認し、必要に応じて ICT 教育推進課と連携をとったり、校内に情報共有したりする。</li> <li>・ デジタル教科書やロイロノートスクールを積極的に活用できるようにアカウントの整備や接続環境を整える。</li> <li>・ 生成 AI に関する研修について県教育委員会の情報をもとに積極的に職員に紹介し、安全かつ有効に利用するための情報共有に努める。</li> </ul>
<p>研究研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聾教育の専門性の向上を目指し、充実した教育活動につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による主体的な学びを大切にし、各自が課題意識をもちながら研修に取り組む。</li> <li>・ さらなる専門性の向上や授業改善につながる研修を実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な研修を設定し、各自の課題を明確にし、研修をとおして、豊かな気づきを得ることができるようにしていく。</li> <li>・ 外部の専門家から、自立活動に関する助言を受け、日々の教育活動につなげていく。</li> </ul>
<p>生活指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の身を守る力や防災に関する知識と技能を身に付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災の日を設定したり、訓練後の振り返り学習を充実させたりし、幼児児童、職員が防災に関する知識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの危険を予測・回避し安全な生活に対する理解を深めることができるような防災教育、避難訓練を行う。</li> </ul>

保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童が安全に学校生活を送ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童が自分でけがや体調を伝えられるよう支援ツールを整備する。昨年度に引き続き来室カードを活用し、けがが起きた原因と今後の対策を児童と対話しながら考え、安全意識を育む。</li> <li>・窒息・誤えん防止や食物アレルギーへの対応、衛生管理を徹底し、幼児児童が安心して給食を食べられるようにする。</li> </ul>	<p>幼児児童に応じた最適なコミュニケーション方法をアセスメントし柔軟に対応し、「カードを書くこと」が目的化しないよう留意する。来室の多い幼児児童については担任と情報を共有し支援につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒息・誤えんの危険性のある食材や調理方法に配慮するとともに、食物アレルギーや衛生管理について職員で共有する。</li> </ul>
いじめ防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に対する情報を共有し、学校全体で組織的に指導に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回実施する児童対象の「心のアンケート」により早期発見を心掛ける。</li> <li>・「学校いじめ不登校対策委員会」を設置し、情報共有を図りつつ学校全体で対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思いや実態の把握後、早期対応を行う。また、アンケートの結果を保護者や学校全体で周知し児童の抱えている問題点を共有する。</li> <li>・職員や児童にいじめ認識アンケートを実施し、いじめの未然防止の理解を深めていく。</li> </ul>
多忙化解消に向けた取組	職員の在校時間の適正化、健康障害防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末に業務改善案を集約し、検討を行う。</li> <li>・施錠時間を徹底し、見通しをもった計画的な業務について呼びかけを行う。時間外在校時間が45時間を超える教員を0にすることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムリ、ムラ、ムダを削減する視点で業務改善案について検討を進める。</li> <li>・校務支援員、校務補助員へ業務依頼について周知し、積極的な活用を促す。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>安全で安心な学校づくり <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災の日、避難訓練の充実</li> <li>(2) 給食、健康管理</li> </ol> </li> <li>教育のさらなる充実 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 時代の変化に応じた聾教育の専門性の向上</li> <li>(2) 主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの視点での授業改善</li> <li>(3) 地域の教育資源を活用した取組</li> <li>(4) 働き方改革に対応した協力体制</li> </ol> </li> <li>学校からの発信力の強化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) センターの機能の充実</li> <li>(2) 情報発信の充実</li> </ol> </li> </ol>		